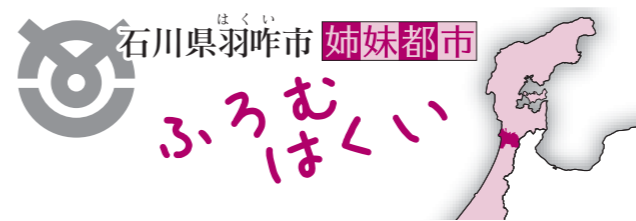
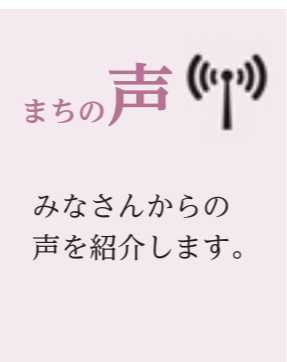


知 人から月見草の鉢を頂いたその日の夜、見事に一輪だけ白い花が咲いた。

羽咋市では、道の駅のと千里浜の他にも日本で唯一、砂浜を車で走ることができ「千里浜なぎさドライブウェイ」やUFO伝説を持つ羽咋の宇宙科学博物館「コスモアイル羽咋」などを楽しむことができます。ぜひ出かけてみてください。

寄せられた声

藤 岡市と姉妹都市を結んでいる羽咋市。まだいたことがない。広報で道の駅のと千里浜が7月7日にオープンした記事を読み、興味を覚えた。「のとし」を食べてみたいと思っている。ぜひ一度行ってみたい。(60代・女性)



藤岡市職員も踊りパレードに参加 1,400人が「サックリ、サックリ」

8月5日、羽咋まつりが開催されました。メインの“はまぐり音頭”では、子ども会や町会、保育所など50団体、約1,400人が参加。そろいの法被や浴衣に身を包み、「サックリ、サックリ」の掛け声とリズムに合わせて、羽咋市のパセオ通りににぎやかな“踊り行列”を作りました。



↑大人も子どももリズムに乗って踊りを楽しみました。

また、特設ステージ上では、華やかなダンスや力強い太鼓演奏などが披露され、まつりに花を添えました。藤岡市からも藤岡市職員共済会として、31人が踊りパレードに参加。物産ブースでは特産品の梨を販売し、羽咋に藤岡の旬の味を届けていただきました。

このほか3通のお便りをいただきありがとうございます。文章は紙面の都合上要約させていただくことがありますのでご了承ください。

「必ず当たる」「すぐに儲かる」などの甘い言葉は安易に信じず、十分確認するようにしましょう。

7 月下旬に海外からハガキと封書が届きました。クリスタルを購入すれば、その力によって宝くじで910万円が当たるとの内容です。巧妙な手口で後をたたない振り込め詐欺を思うと、うっかり応じるわけにはいきません。皆さんも注意して！(60代・女性)

翌朝6時にはすっかり萎れて紅色に様変わり。一夜のために輝いて、消えゆく姿に物の哀れを感じると共に、その潔さに複雑な思いを抱いた今日この頃です。(70代・男性) 一夜限りの花を咲かせる月見草は、何とも風情を感じさせられます。開花の瞬間に立ち会えたことは貴重な体験ですね。

プレゼント

皆さんの声を募集します。本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。「まちの声」で紹介しします。
※個別の回答はしません



おまかせ定食 (1人前)
その日の仕入れによって献立が変わります。引き換えは土日のみ。

応募・問い合わせ ハガキかメールに住所、氏名、性別、年齢、電話番号、まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報広聴係「まちの声」応募係・hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

自家農園の無農薬野菜や地元産の米など、自らの目で確かめた食材のみを使用。“医食同源”をモットーに、安心安全で体に優しい料理を皆様に提供しています。

玄庵

藤岡市篠塚312-2 ☎25577
営業時間/午前11時30分～午後2時、午後5時30分～8時
定休日/水曜日、月末の木曜日

お便りをくれた人の中から玄庵よりおまかせ定食(1人前)を5人にプレゼント。応募締切は9月15日(金)当日消印有効です。
※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます

プレゼントの提供者を募集しています。秘書課広報広聴係☎2208までご連絡ください。

耳より情報 今が旬! 「藤岡の梨」



9月になると梨が食べ頃を迎えます。本市は県内でも梨の生産が盛んな地域で、市内の果樹園や、ららん藤岡などで気軽に梨を購入することができます。

梨はシャキシャキとした食感とみずみずしい果肉が魅力的ですが、他にも効能があります。豊富な水分は解熱作用に効果的とされていますし、夏バテや疲労回復に有効な成分も含まれています。まだまだ暑いこのシーズン、梨を食べて乗り切りましょう。

関連イベント

*梨の共進会・無料配布詳しくは8月15日号広報3ページをご覧ください

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～ No.18

お問い合わせ 文化財保護課 ☎235997

かいゆう 灰釉陶器の話

～東海地方から運ばれた陶磁器～

物が、次第に現代のように産地で生産され地方でも使われるようになりました。これは、産地で量産が可能になったこと、また遠方まで運搬できる環境が整ったことなどが背景にあります。本市から出土した陶磁器も東海地方から運ばれたものと考えられます。

矢場三ッ橋B遺跡 H-25号住居跡出土の灰釉陶器

平成23年に調査した矢場三ッ橋B遺跡では、平安時代半ばの住居跡から「灰釉陶器」と呼ばれる焼き物が出土しています。薄い灰色の色調で、摩滅していますが、縁の周辺には釉薬が見られます。

灰釉陶器の「灰釉」とは草木の灰を原料にした釉薬のことで、これをかけることで緑がかったガラス質の光沢を出すことができます。この釉薬は1,200度に近い温度で溶け出すため、内部を高温にできる窯や、その温度に耐えられる粘土が必要となります。灰釉陶器は、どこでも作れる物ではなく、主に東海地方と、近畿・北陸地方の一部で作られました。

灰釉陶器の作られた平安時代半ば以降、焼き物が使われる範囲についても変化がありました。それまでは、地元で作成・利用されていた焼き